

# 巻頭論文

## 防災システムの現状と展望

自然災害にさら(晒)されやすい条件下にある我が国にとって防災対策は重要課題であり、従来からハード的・ソフト的の両面から各種施策が展開されてきた。今回特集する防災システムは、ソフト的対策のひとつとして現在注目されているものであり、防災活動を情報面から総合的に支援するシステムである。

防災システムは、防災通信システムと防災情報システムに大別される。防災通信システムは、防災行政無線システムを主体としており従来から整備が進んでいるが、最近の傾向として衛星通信の利用拡大、有線通信との相互補完、マルチメディア化等が挙げられる。また、防災情報システムは防災通信システムを通信インフラとして防災に関わる情報を一元的に管理・運用するシステムであるが、近年災害対策本部支援AVシステム、被害・措置情報管理システム、気象情報集配 信システム等を中心に導入が急速に加速しつつある。

三菱電機では、防災通信システム、防災情報システムともにそのれい(黎)明期から積極的な研究開発を展開するとともに、実績を積み重ねてきた。そして、現在は阪神・淡路大震災の経験・教訓や多様化・高度化するニーズにこたえるべく更なる研究開発に注力している。

この特集号では、上記の状況を踏まえ当社の防災システムに対する取組を紹介する。

羽子岡 蕃 公共事業部参事

日方 俊幸 公共システム技術部

公共システム技術第二グループマネージャー